

内面の成長を図り、集団生活への適応と再登校を促進することをねらいとする。

〈実施の方法〉

- 構成するグループのメンバーは、児童生徒5名と指導援助者2名程度とする。
- 活動の時間は、導入、展開、まとめを含み、60分程度とする。
- 評価はグループ・カウンセリングの後半のまとめの時間の中で、感想や気持ちを確かめながら行い、一人一人の充実感を大切にする。

〈指導援助者の役割〉

基本的な態度として、相手の立場で見たり、考えたり、感じたりする「共感」や相手を受け入れ、尊重する「受容」に心掛け、必要に応じて「助言・指示」を行う。

〈活動の流れ〉

指導援助の活動の流れを次のようにする。

導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導援助者が活動の開始を告げ、テーマと進め方を説明する。 ・ 仲間を冷やかしたり、責めたりする言動を取らないことを約束する。 ・ ウォーミングアップを行う。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初は、指導援助者の指名により全員がテーマに関する気持ちや考えを発言する。 ・ 全員の発言が終わった後で、さらに気づいた気持ちや考えを発言する。 ・ 発言を自由にしていく。 ・ 指導援助者が終了を告げる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りをする。

〈指導援助の実践例〉

- 実践に当たっての目標
- 仲間意識を高め、孤立感を軽減する。
- 自分と他の人との共通点に気づき、安心感を与える。
- 参加者

児童生徒側は、A男（小学校4年）、B男（中学校1年）、C男（中学校3年）、D子（中学校3年）の4人とする。

指導援助者側は、リーダー（T1）、サブリーダー（T2）の2人とする。

- 場所は、日常生活の場である適応指導教室とする。

〈指導援助の実際〉

○ 導 入

・ T1 「これから、『教室での自分の体験』という話題で、その時の気持ちや考えを話し合ってみよう。」

・ T2 「大切な話し合いなので、仲間を冷やかしたり、責めたりすることはやめよう。約束しようね。」

・ T1 「話し合いの前に、みんなで、『ネームゲーム』をしよう。」

・ T2 「やり方は、自分の名前の前に〇〇の好きな〇〇です、というように自己紹介をし、次の人は、〇〇の好きな〇〇さんとなりの△△の好きな△△です、というように続けていくゲームです。」

・ T1 「じゃあ、私から自己紹介していきます。りんごの好きなT1です。D子さん、お願いします。」

・ D子 「りんごの好きなT1さんとなりのまんの好きなD子です。」

(以下、このように続けていき、全員が「ネームゲーム」のウォーミングアップを終わる。)

○ 展 開

・ T1 「和やかな雰囲気になってきたね。この辺で、みんなと『教室での自分の体験』という話題で話し合いを始めよう。」

(…沈黙、お互いに顔を見合わせる。)

・ T2 「私は、中学生のころ、一部の人から無視され、いやなことがあったなあ。」

・ C男 「僕、一日、話さないで黙ってた。」

(思わず、「おー」という驚きの声が出る。)